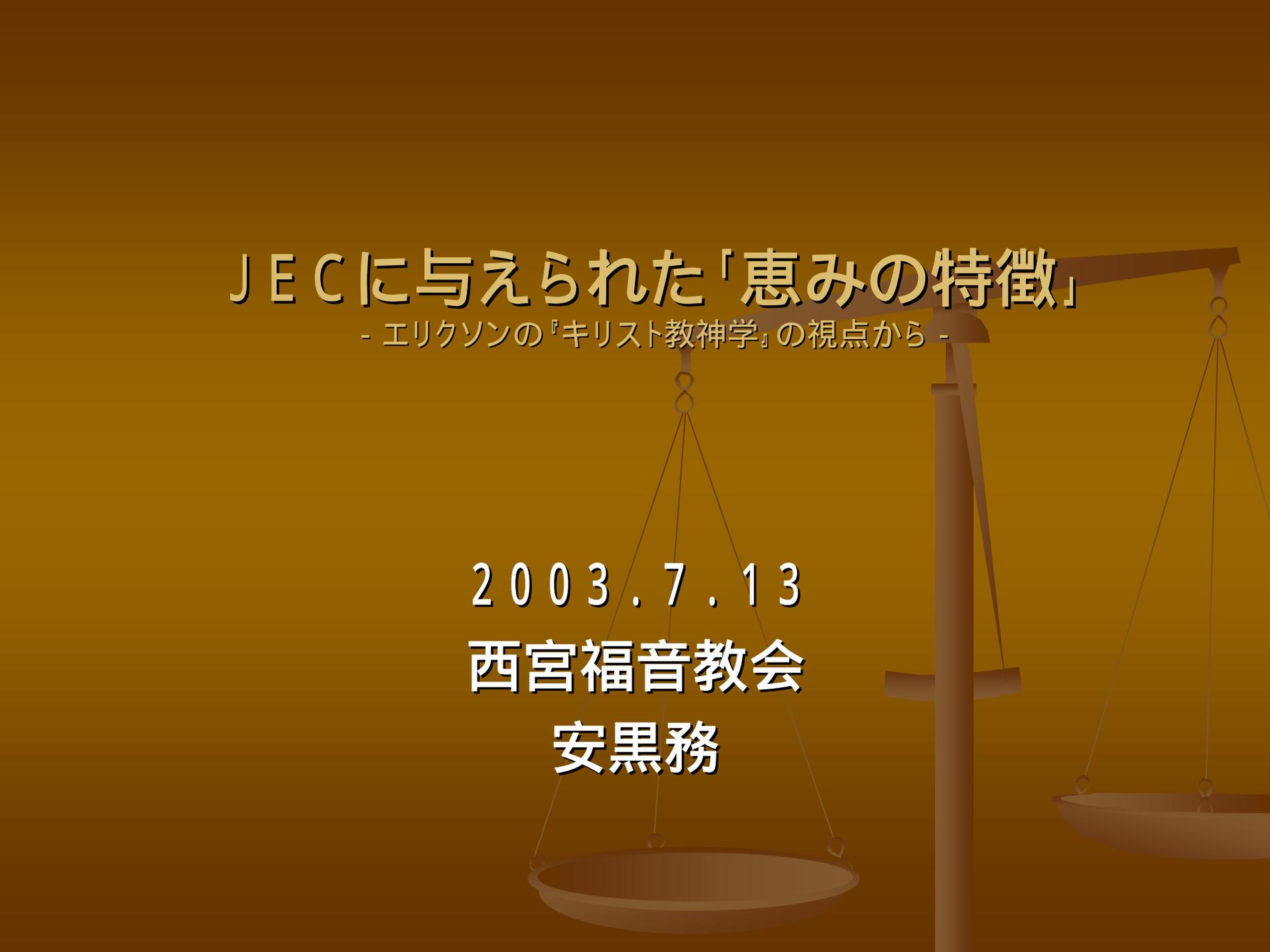


JECに与えられた「恵みの特徴」



- エリクソンの『キリスト教神学』の視点から -

2003.7.13

西宮福音教会

安黒務

挨拶と導入

1. 招きへの感謝

1. 学生時代に救いに導かれました教会からお招きいただくことは、私にとって喜び...
2. 今日は、早天と礼拝と午後の集会で奉仕させていただきますので...
3. 担当者されている方からテーマをいただきました。私の分かち合いたいことをそのまま表現したような内容でしたので、喜んで準備させて...

2. テーマについて

1. テーマは、
2. JECに与えられた「恵みの特徴」
3. そして、それと「エリクソン神学」の関連について

3. JECとエリクソンの関係

1. JECのルーツは、スウェーデン・オレブロ・ミッションで、それはスウェーデン・バプテストの諸教会を背景に...
2. エリクソンは、スウェーデン系アメリカ人であり、アメリカにあるスウェーデン・バプテスト系のバプテスト・ジェネラル・カンファランスに所属して...
3. 要するに、JECとエリクソンは同じルーツをもつ存在...

4. JECの信仰とエリクソンの神学

1. JECとエリクソンは同じルーツをもち
2. エリクソンの神学をここ数十年教えてきました...
3. その印象、あるいは感想を申しますと...
4. JECの信仰とエリクソンの神学は、コインの表と裏の関係にあると...
5. 私の書齋には、たくさんの組織神学書があります。「JECの流れを最も適切に表現した組織神学書を一冊選びなさい」といわれましたら、迷うことなくエリクソンの神学書を選びます。
6. JECの信仰を深く知ろうとすれば、エリクソンの神学を深く学ぶと良い...
7. 初等 中等 高等教育 = 接合 (関節をつなく) 連続性
8. 「JECの信仰」と「エリクソンの神学」 - 連続性・発展性がある
9. 現在と将来 - 教職者また信徒の方が、「JECの神学とはどのようなものでしょうか。またJECの神学は今後どのように展開し発展していくのでしょうか。」と聞かれましたら -
10. 迷うことなく、「エリクソンの『キリスト教神学』」を読みなさい。学びなさい。」と申し上げます。

5. エリクソンとその神学の評価

1. 世界の福音派で最も尊敬されている神学者のひとり
2. その神学 = 世界の福音派の基準となっている組織神学書
3. JECがこの線路に乗って、地道に誠実に着実に、成長を遂げていけば
4. 日本と世界の福音派の中で、尊敬を集めることのできる群れとなって成長していける

1. 土台

土台 = イエス・キリスト

1. 土台は教派を超えた共通項

2. All One in Christ

3. そのキリストは、十字架のみわざを成し遂げられたキリスト

2. 「キリストの十字架のみわざ」とその解釈 = 神の解釈

1. 最も大切なこと「新改訳 コリ15:3-4 私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおり、私たちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと、また、聖書に従って三日目によみがえられたこと、」

2. 単にひとりの人間の死ではなかった。全人類のための“代償的刑罰”「ヨハネ 2:2 この方こそ、私たちの罪のための、私たちの罪だけでなく全世界のための、なだめの供え物なのです。」

3. これを「罪の赦し」の恵み、「義認」の恵みと...

1. クリスマン生活で最も大切なもの - 「救いの確信」 - 他のすべての恵み忘れることがあっても、これだけは...

2. 土台と家 - 手抜き工事、地盤に問題のある土地に建てた家「一生悔いが残る」建築士によるチェックの必要 - パウロ「コリ3:10 賢い建築家のように、土台を据えました」 - 私たちも「賢い建築家のように」土台 = 救いの確信を確実なものに - 建築時、そして定期的に確認 - 「ペテロ 1:10 ですから、兄弟たちよ、ますます熱心に、あなたがたの召されたことと選ばれたことを確かなものとしなさい。これらのことを行なっていれば、つまづくことなど決してありません。」

4. 義化ではなく、宣義... 神の法廷における宣言

1. カトリックでは“義化”、プロテスタントでは“宣義”

2. 霊的状态をみれば「救いの確信」得られず - 絶えず動揺する。

3. 私たちの霊的状态ではなく、神は真実で正しい方ですから - 正しい手続きを通して赦される

4. 神の永遠の法廷における“有罪・無罪”の宣言

5. キリストの代償的刑罰 = 罪の赦しの根拠

1. ヨハ1:9-2:1 神は「真実で正しい - 姦淫と殺人を犯したダビデ - 通常なら死罪 - 「新改訳 ロマ 4:4-8 働く者のばあいに、その報酬は恵みでなくて、当然支払うべきものとみなされます。何の働きもない者が、不敬虔な者を義と認めくださる方を信じるなら、その信仰が義とみなされるのです。ダビデもまた、行ないとは別の道で神によって義と認められる人の幸いを、こう言っています。「不法を赦され、罪をおおわれた人たちは、幸いである。主が罪を認めない人は幸いである。」

2. 罪とは、「新改訳 マタ 15:18-19 しかし、口から出るものは、心から出て来ます。それは人を汚します。悪い考え、殺人、姦淫、不品行、盗み、偽証、ののしりは心から出て来るからです。」

6. 救いの確信 - 信仰生活に大胆さが養われる

1. ヘブ 4:16 ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、おりにかなくなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。

2. ヘブ 10:19 こういふわけですから、兄弟たち。私たちは、イエスの血によって、大胆にまことの聖所にはいることができますのです。

3. 私たちの救いの根拠は、「イエス・キリストの代償的刑罰」 - 私たちの行いとか状態ではないところから霊的大胆さは養われる = 健全な霊性 - 快活さ

詩篇32篇

■ [32]

■

■ **ダビデのマスキール**

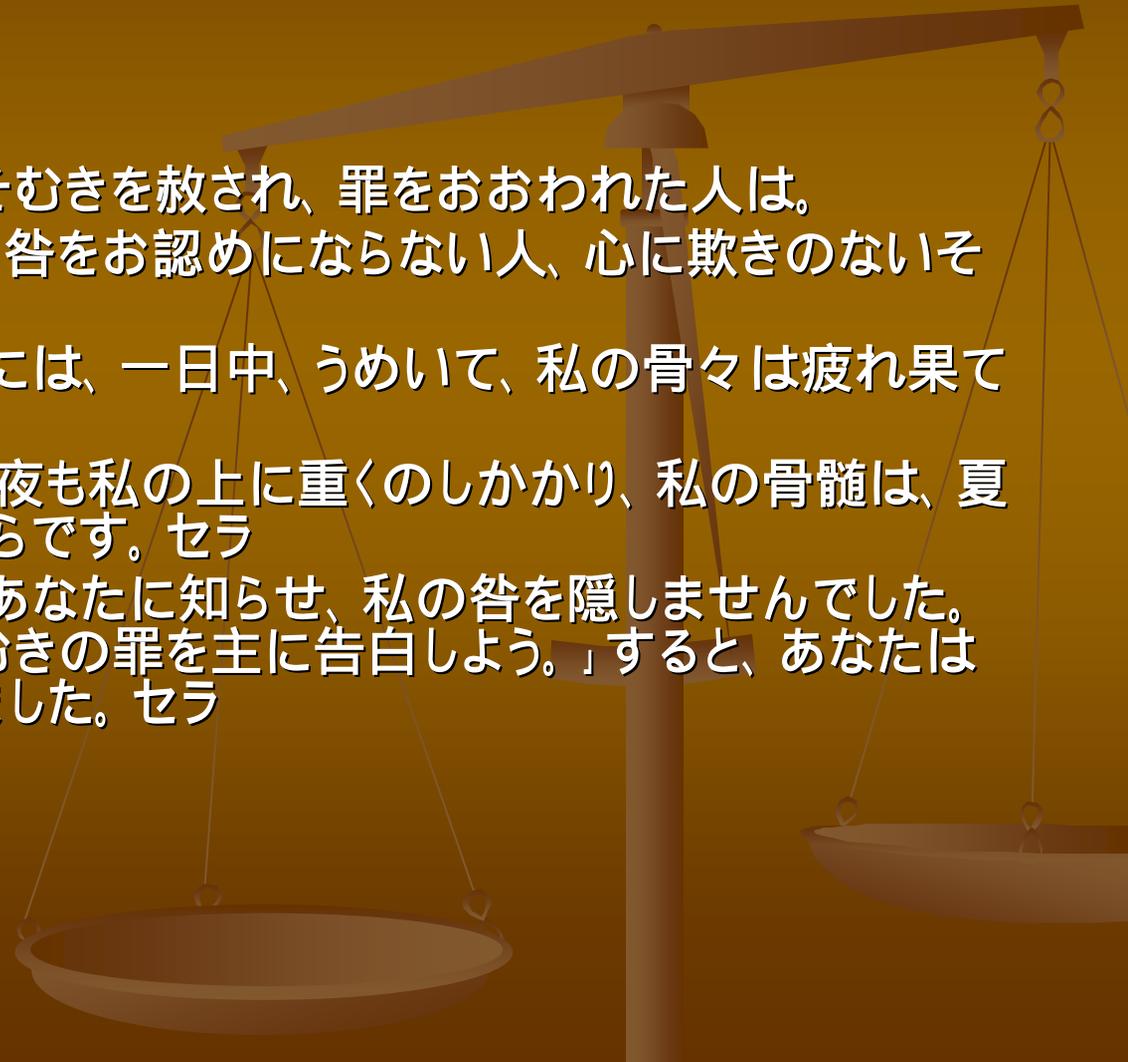
■ 32:1 幸いなことよ。そのそむきを赦され、罪をおおわれた人は。

■ 32:2 幸いなことよ。主が、咎をお認めにならない人、心に欺きのないその人は。

■ 32:3 私は黙っていたときには、一日中、うめいて、私の骨々は疲れ果てました。

■ 32:4 それは、御手が昼も夜も私の上に重くのしかかり、私の骨髓は、夏のひでりでかわききったからです。セラ

■ 32:5 私は、自分の罪を、あなたに知らせ、私の咎を隠しませんでした。私は申しました。「私のそむきの罪を主に告白しよう。」すると、あなたは私の罪のとがめを赦されました。セラ



詩篇51篇

[51]

- 指揮者のために、ダビデの賛歌。ダビデがバテ・シェバのもとに通ったのちに、預言者ナタンが彼のもとに来たとき
- 51:1 神よ。御恵みによって、私に情けをかけ、あなたの豊かなあわれみによって、私のそむきの罪をぬぐい去ってください。
- 51:2 どうか私の咎を、私から全く洗い去り、私の罪から、私をきよめてください。
- 51:3 まことに、私は自分のそむきの罪を知っています。私の罪は、いつも私の目の前にあります。
- 51:4 私はあなたに、ただあなたに、罪を犯し、あなたの御目に悪であることを行ないました。それゆえ、あなたが宣告されるとき、あなたは正しく、さばかれるとき、あなたはきよくあられます。
- 51:5 ああ、私は咎ある者として生まれ、罪ある者として母は私をみごもりました。
- 51:6 ああ、あなたは心のうちの真実を喜ばれます。それゆえ、私の心の奥に知恵を教えてください。
- 51:7 ヒソブをもって私の罪を除いてきよめてください。そうすれば、私はきよくなりましょう。私を洗ってください。そうすれば、私は雪よりも白くなりましょう。
- 51:8 私に、楽しみと喜びを、聞かせてください。そうすれば、あなたがお砕きになった骨が、喜ぶことでしょう。
- 51:9 御顔を私の罪から隠し、私の咎をことごとく、ぬぐい去ってください。
- 51:10 神よ。私にきよい心を造り、ゆるがない霊を私のうちに新しくしてください。
- 51:11 私をあなたの御前から、投げ捨てず、あなたの聖霊を、私から取り去らないでください。
- 51:12 あなたの救いの喜びを、私に返し、喜んで仕える霊が、私をささえますように。
- 51:13 私は、そむく者たちに、あなたの道を教えましょう。そうすれば、罪人は、あなたのもとに帰りましょう。
- 51:14 神よ。私の救いの神よ。血の罪から私を救い出してください。そうすれば、私の舌は、あなたの義を、高らかに歌うでしょう。
- 51:15 主よ。私のくちびるを開いてください。そうすれば、私の口は、あなたの誉れを告げるでしょう。
- 51:16 たとい私がささげても、まことに、あなたはいけにえを喜ばれません。全焼のいけにえを、望まれません。
- 51:17 神へのいけにえは、砕かれたたましい。砕かれた、悔いた心。神よ、あなたは、それをさげすまれません。
- 51:18 どうか、ご恩寵により、シオンにいつくしみを施し、エルサレムの城壁を築いてください。
- 51:19 そのとき、あなたは、全焼のいけにえと全焼のささげ物との、義のいけにえを喜ばれるでしょう。そのとき、彼らは、雄の子牛をあなたの祭壇にささげましょう。
-

裁判

裁判長：父なる神

弁護士：イエス・
キリスト



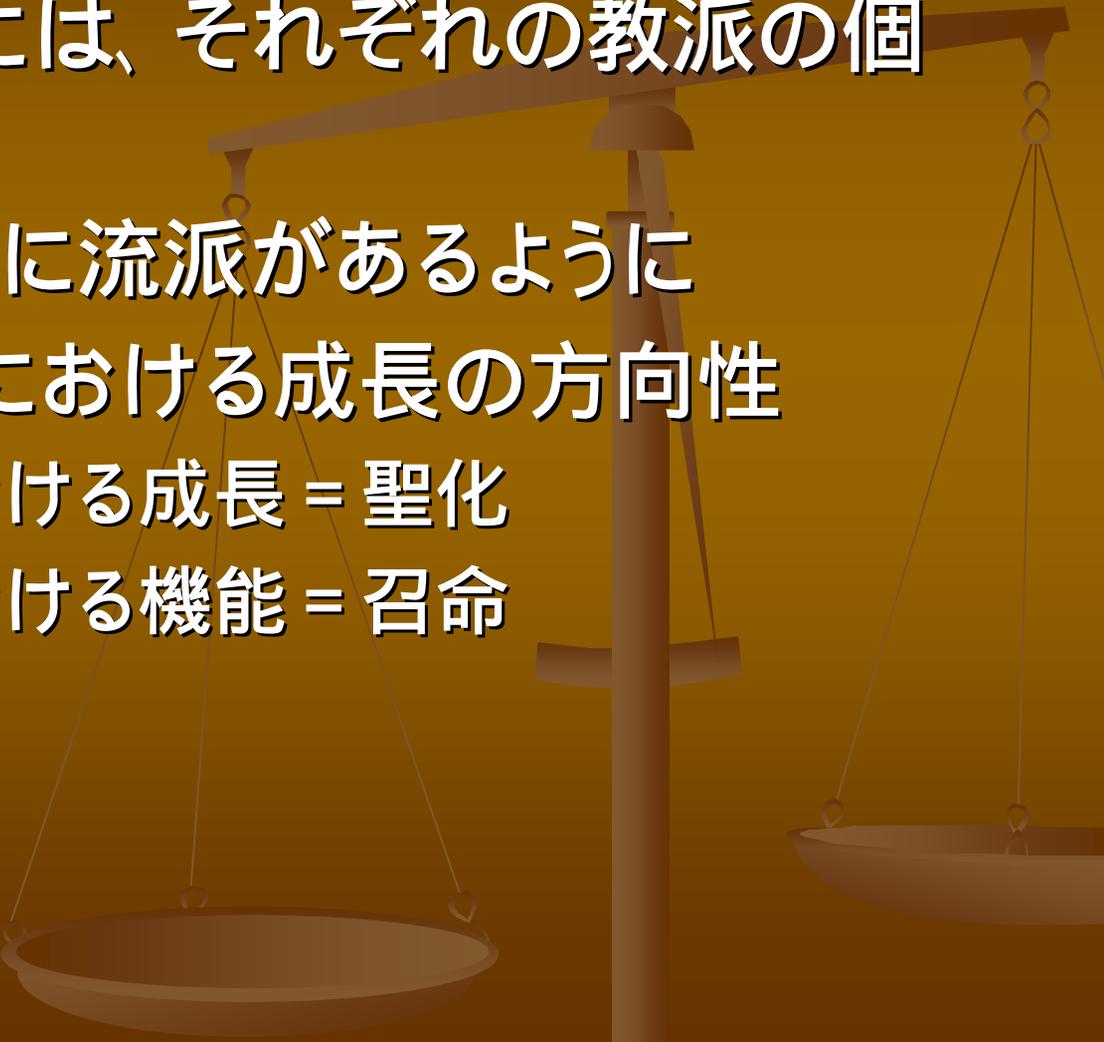
検察官：律法

被告：罪人

新改訳 ヨハ1:9-2:1

もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。...私たちには、御父の御前で弁護して下さる方があります。それは、義なるイエス・キリストです。

2. 建物：聖化と召命

1. 建物の建て方には、それぞれの教派の個性・特色がある
 2. 生け花・剣道等に流派があるように
 3. 信仰者の生涯における成長の方向性
 1. 人格・品性における成長 = 聖化
 2. 個性・賜物における機能 = 召命
- 

建物 - 聖化

1. クリスマン生活の当初 - K G K「静思の時」
 1. 毎日、聖書を読み、瞑想し教えとさとし受け、霊的食事をとり、祈りととりなしを定期的にする
 2. 十分な恵みある生活
2. 聖化について考えるようになったのは、
 1. ウォッチマン・ニー『キリスト者の標準』を読んでから：
 2. 十字架の二重の意味 - 「血と十字架」 -
 3. 罪の赦しと古い自我「肉」からの解放、犯した罪と心のうちにある罪の性質の問題
3. 聖化の理解には、二つある：漸進主義と危機主義
 1. 漸進主義とは、誕生 - 成長
 2. 危機主義とは、毛虫 - 蝶
 3. JECは、折衷主義・中庸路線 - 漸進主義（パプテストの聖化理解）を基盤にして、危機的強調（塩屋の影響）をする
4. 根絶（パーフェクション）ではなく、解放（存在するが支配されず）との理解
 1. 完全主義ではなく、ローマ7章のパウロのごとく、二重の現実にたくましく生きる生活
 2. 新改訳 ロマ 7:24-25 私は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか。私たちの主イエス・キリストのゆえに、ただ神に感謝します。ですから、この私は、心では神の律法に仕え、肉では罪の律法に仕えているのです。
 3. J. D. G. ダン「一時的なものではなく、クリスマンの一生涯の叫び」 - 霊と肉の葛藤の鋭さ = いのちのしるし

J.D.G.Dunn:Rom 7

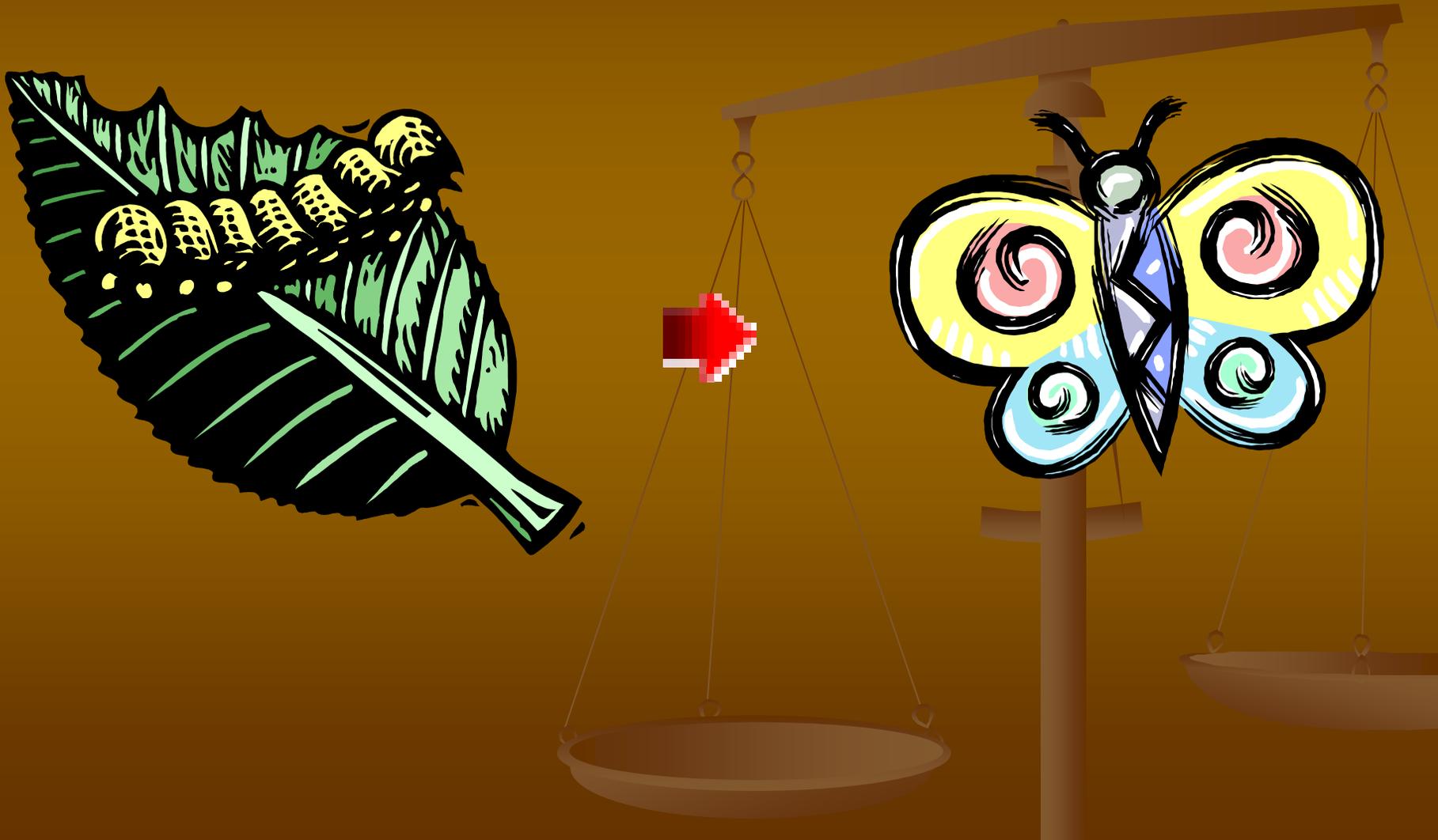
- For Paul, the religious experience of the believers is characterized by paradox and conflict- the paradox of life and death, the conflict of Spirit and flesh.
- It is a life-long tension; the cry of frustration in Rom 7:24 is the life long cry of the christian.
- All through this life the possibility lies before him of walking according to the flesh or walking according to the Spirit – both are real possibility, and at least to some extent actualities, til the end of this life.
- Spiritual conflict is the sign of life
- The Spirit can only present as paradox and conflict.
- It is this paradox and conflict which is the mark of healty religious experience – not its absence.

義認と聖化の対比

実質的聖化(状態・主観的)

立場	行為・生活
義認	聖化
瞬間	プロセス
有罪か無罪	程度差
法的・宣言的	性格・状態の変化
神の御前における立場	私たちの内的人格
客観のみわざ	主観的経験

危機主義理解



漸進主義理解



建物 - 召命

1. 召命

1. ヘンドリクス・ベルコフ「聖霊の教理」
2. 私の人生を決定づけた書物のひとつ
3. 「自身の永遠の救いと個人的建徳に没頭して、まだ聖霊の運動の達していない隣人のために時間をさくことができない。」クリスチャン像
4. 静的なクリスチャン像 = 静的というよりも自己中心的である。
5. 聖書は単に「回心の物語」であるだけでなく、「召命の物語」である。

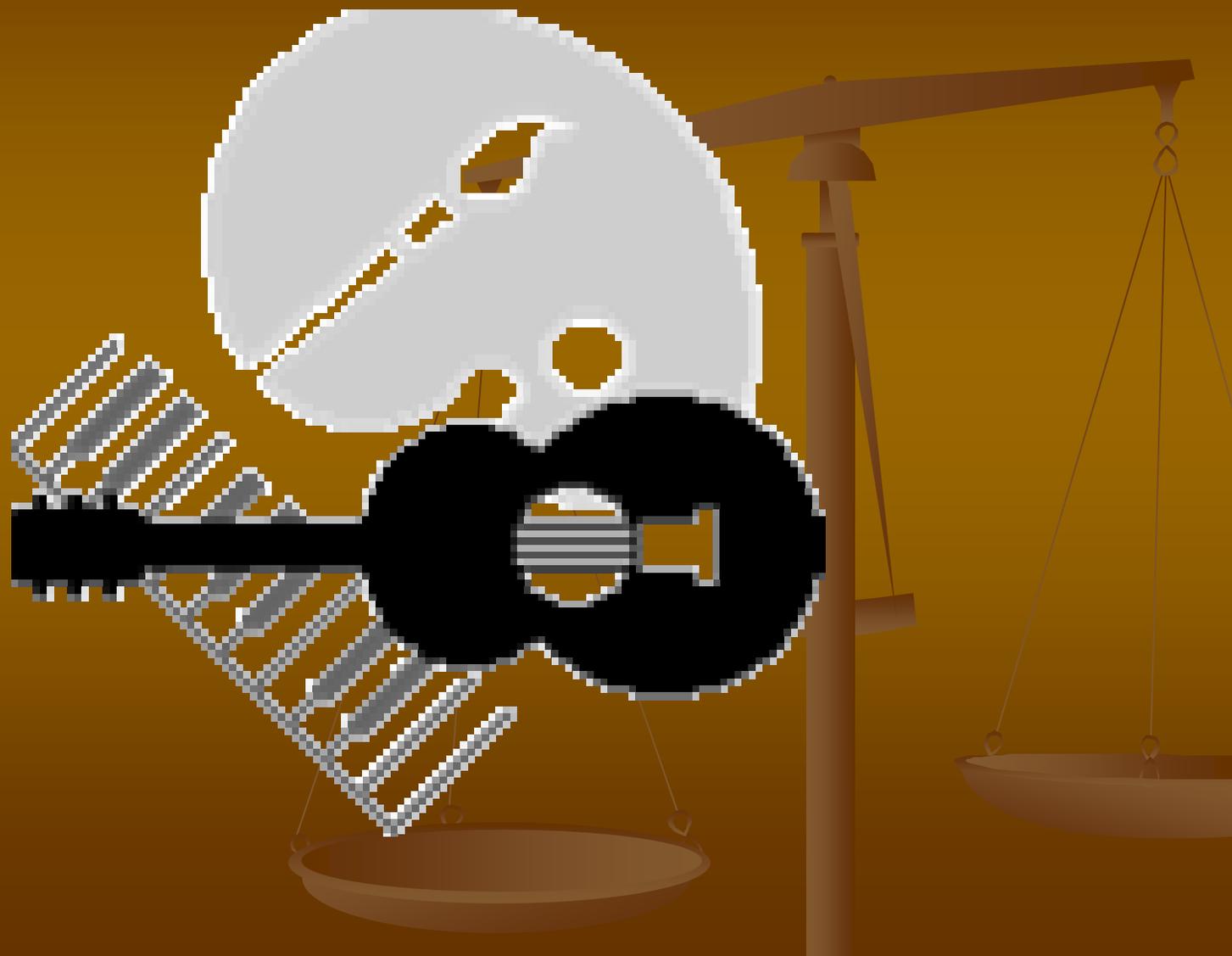
2. 義認・聖化・召命

1. 聖霊は義認において、我々の中心を占有し、
2. 聖化において、我々の人間性の全領域を占有する
3. そして聖霊の満たしにおいて、我々の個性を占有する。
4. この個性というのは、私だけがもつ特別なしるしであり、生全体のために私がなすべき特別な貢献である。

3. 聖化・召命と報いとの関係

1. 義認という土台にたって
2. 聖化と召命において、いかに人生という建物を建てるか
3. それが、終末時における報いに直結している

楽器の清掃と楽器の演奏の相違



まとめ

1. まとめ

1. 義認 = 土台
2. 建物 = 人生
3. 聖化と召命 = 建て方 - 楽器の清掃と演奏
4. 聖化と召命 = 報いとして結実

2. 死後の出来事 = 火事のたとえで述べられていますが、メッセージのしめくりとして

1. 聖書の教えを、簡潔にまとめたもの
2. 小さな組織神学書ともいわれる
3. ウェストミンスター信仰告白
4. 第33章 最後の審判について

3. 死後の出来事

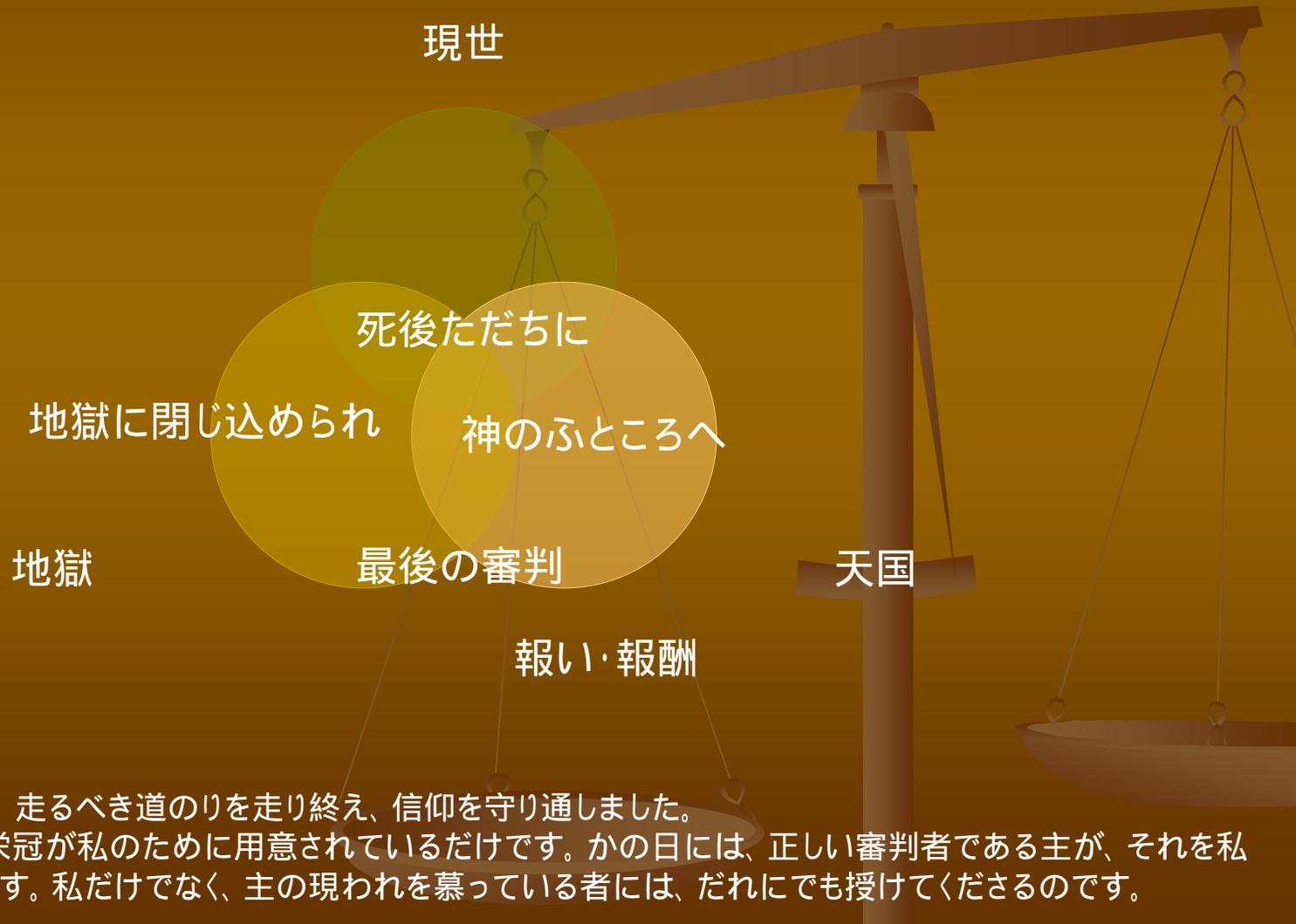
1. 人間のからだは、死後、ちりに帰り、朽ち果てる。
2. しかし彼の靈魂は(死にもせず、眠りもせず)不死の本質をもっているので、直ちにそれを与えられた神に帰る。
3. 義人の靈魂は、その時に完全にきよくされ、最高の天に受け入れられ、そこで、彼らのからだの全きあがないを待ちながら、光と栄光のうちに神のみ顔を見る。
4. また、悪人の靈魂は、地獄に投げ込まれ、大いなる日のさばきまで閉じ込められ、そこで苦悩と徹底的暗黒のうちにあり続ける。
5. 聖書は、からだを離れた靈魂に対して、これら二つの場所以外には何も認めていない。

4. キリストの法廷における報い

1. 神は、イエス・キリストにより、義をもってこの世界をさばく日を定められた。
2. すべての権能とさばきとは、み父から彼に与えられている。
3. その日には、背教したみ使いたちがさばかれるだけでなく、
4. かつて地上に生きたことのあるすべての人も、彼らの思いと言葉と行いとのために申し開きをし、
5. また善であれ悪であれ彼らがからだで行なったことに応じて報いを受けるために、キリストの法廷に立つ。

5. お祈りしましょう。

聖書の来世観



新改訳 テモ4:7-8

4:7 私は勇敢に戦い、走るべき道のみを走り終え、信仰を守り通しました。

4:8 今からは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。かの日には、正しい審判者である主が、それを私に授けてくださるのです。私だけでなく、主の現われを慕っている者には、だれにでも授けてくださるのです。